

和歌山県有床診療所協議会会員事務局より会員の皆様へ

2019.12.14

文責：辻 興

いつも当協議会活動への会員の皆様の御協力、心より感謝申し上げます。

12月12日に和歌山市にて開催されました第3回理事会の報告書が出来ましたので、御一読お願い申し上げます。本理事会において、先の和有協会員「電子カルテ導入状況」アンケートへの回答において、電子カルテとレセコンを間違えて回答させた例が多数判明いたしました。その結果、回答された会員の有床診療への電子カルテ導入は外来2件、病棟0件であることが判明致しました。入院部門の電子化が遅れているのは電子カルテとレセコンの連携に問題があり、丸目の医療療養病床であれば可能かもしれませんが、急変もあり、24時間稼働している一般病床では入院への導入が困難な現状があるようです。但し、電子カルテ世代への継承を考える時、これは問題です。今後検討を重ねたいと思います。同アンケート結果の修正版を報告事項に記載しておりますので御覧下さい。また、令和2年度の和有協情報交換会開催日は2020年8月29日(土)の予定となりました。2020年度全国総会はお隣の徳島で9月12日・13日開催です。フェリーで行けますので、今から御予定にお入れ下さります様、宜しくお願い致します。今年一年、どうも有り難う御座いました。来年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

※この記事は、協議会HP会員ページ「会員の皆様へ2019/12/14」にも掲載しております。

令和元年度第3回一般社団法人和歌山県有床診療所協議会理事会【報告書】

日時 令和元年12月12日(木)午後5時～午後6時

場所：和歌山市・鯨宮田

出席理事：辻 興、辻 寛、勝田仁康、児玉敏宏、木下泰伸

風神会計事務所：馬谷詩洋先生

委任状提出理事：木下欣也、北山俊也

※理事会忘年会(午後6時～)は自費開催

出席理事：辻 興、辻 寛、勝田仁康、児玉敏宏、木下泰伸

風神会計事務所：馬谷詩洋先生

【議題】

I：報告事項

2019年度第2回理事会(6/20)以降の協議会活動の報告。

●和有協会員「有床診療所」名称の変更への意向アンケート

実施日：8月28日(9/10締切)

アンケート対象者：和歌山県有床診療所協議会全会員

回答率41%

実施理由：

第二次世界大戦以降の、極めて長い歴史を有する「有床診療所」が、未だに市民権を得られていないのは、あまりに認知されにくい名前に問題がある。「有床診療所」という名前を放棄し、アメリカで急増している「マイクロ・ホスピタル」に名称に変更し、古臭いイメージを一新すべきでは？との意見が8月24日開催の和有協情報交換会において多数聞かれた為、和有協が今後名称変更論議を推進すべきか否かを検討する為に、和有協会員に、名称変更に関するアンケートを実施。

アンケート結果：

【質問1】：認知されにくい「有床診療所」という名称を変更すべきと思いますか？

- ◇ 変更すべき：67%
- ◇ 変更すべきでない：0%
- ◇ どちらとも言えない：33%

変更すべき理由は何ですか？

入院施設という感じがしない

入院施設と診療所のイメージが結びつかない為

【質問2】：「マイクロ・ホスピタル」への名称変更賛成ですか？

- ◇ 賛成：67%
- ◇ 反対：0%
- ◇ どちらとも言えない：33%

※名称変更賛成の理由は何ですか？

新しい価値の創造に繋がる為

【質問3】：「有床診療所」という名称を変更する場合、「マイクロ・ホスピタル」よりも最適な名称はありますか？

- ◇ 有る：11%
- ◇ 無い：78%
- ◇ どちらともいえない：11%

※本アンケート結果を「全国有床診療所連絡協議会若手医師の会委員会（9/29：福岡）」にて報告。「病床を有する診療所」との法的名前の別称として「マイクロ・ホスピタル」を検討しても良い、との回答。

●和有協会員「電子カルテ導入状況」アンケート

実施日：11月22日（11/30締切）

アンケート対象者：和有協A会員（病床稼働中）⇒ 回答率50%

実施理由：

会員より有床診への電子カルテ導入に際しお勧めの電子カルテを知りたいとの要望があり、無床診療所用や病院用の電子カルテは選択肢があるものの、和歌山県において、有床診療所向きの電子カルテは存在するのか？会員の電子カルテ導入状況とメーカー、お勧め度調査の為「電子カルテ導入状況アンケート」を実施。

アンケート結果：

- ◇ 外来・入院・在宅とも導入している。：0%
- ◇ 外来でのみ導入している。：20%

入院で導入していない理由：

- ・価格は安いが入院部門がオーダーリングシステムと連携していない（Open Dolphin Pro）
- ・入院部門は雛形が無くオーダーメイド形式であった為、細かな点滴指示等がスムーズに対処出来るのか懸念が生じた。（メディコム）
- ・ハード面で 24 時間稼働出来ず、急変時の緊急指示等でパソコンの立ち上げに問題がある。（メディコム）。

在宅で導入していない理由：

- ・当初導入したが、往診先でノートパソコンが立ち上がらない等のトラブルが多発した為、在宅での利用を中止し従来の紙カルテに記載し帰院後電子カルテに入力する形式とした（メディコム）

◇電子カルテは導入していない。：80%

導入していない理由：

- ・電子カルテより紙カルテの方が患者様とのコミュニケーションが上手くいく：10%
- ・コスト、操作面が不安：10%
- ・レセコンのみ導入。
- ・計画中：20%

※総括：

和歌山県の有床診療所に入院部門の電子カルテ導入が進んでいない実態が判明。有床診それぞれの担っている役割が大幅に異なっており、標準化が難しいものと考えられる。オーダーメイドで自院に合ったシステムを構築するしかないが、雛形が無いと構築に大変な労力を要する上、良いシステムが登場すれば無駄になるとの懸念もある。また、電子カルテを常時起動させておくことはシステムに負荷がかかるとの指摘があり、24 時間営業の有床診、それも看取りで急変のある施設で使い物になるのか不安もある。電子カルテ世代の若手医師への有床診継承において、入院カルテの導入は大きな課題である。

●12/4 有床診療所の日・HP ダウンロードポスタープロジェクト

実施日：2019 年 12 月 4 日

参加者：和有協全会員

概要：

- ①和有協会員が担っている病床機能アンケート結果（3/11 実施）を基に、株式会社ラカンに依頼し A4 サイズの「有床診療所の日ポスター」と「有診病床機能告知ポスター（病床機能別 21 種類）」を製作。
- ②和歌山県有床診療所協議会ホームページに「有床診療所の日・和有協ダウンロードポスタープロジェクト 2019」専用ページを作成し「有床診療所の日ポスター」と「有診病床機能告知ポスター」をダウンロード出来る様に改良。
- ③12/4「有床診療所の日」イベントとして、自院病床機能に適したポスターを会員各自ダウンロードし、自院待合等に掲示することで、通院患者様への自院が担う病床機能の周知を図った。

II：協議事項

1. 2020 年度情報交換会までのスケジュールについて

- ◆2019 年 12 月 12 日：理事会決議（業務報告）

◆2020年3月31日：決算

◆2020年6月30日迄：

①会計監査（監事） ⇒ 2020年4月中旬を予定

②理事会決議 ⇒ 2020年4月中旬予定の第1回理事会で決議

決算承認

予算承認

業務報告

③令和2年度第26回和有協定時総会（書面開催） ⇒ 2020年6月1日頃予定

第1号議案 令和元年度事業報告について

第2号議案 令和元年度決算について

第3号議案 令和2年度事業計画について

第4号議案 令和2年度予算について

※ 第5号議案 「次期理事・監事の選任について」は、2年に1回の為、
次回令和3年度社員総会にて

◆2020年8月29日（土）：令和2年度和有協情報交換会

注意）令和2年度は東京オリンピック開催の影響により第33回全国有床診療所連絡協議会総会（徳島大会）の開催日が2020年9月12日（土）・13日（日）の為、例年通り和有協情報交換会での全国総会報告が出来ない為、後日和有協 HP に報告書を掲載とする。

2. 名誉会長逝去後の扱いについて

逝去日を以て一旦解嘱とさせて頂くが、会員名簿やホームページ等で旧・名誉会長の名前を残す事を検討する。

3. その他

「県民の友」への有床診記事掲載について

12月4日の「有床診療所の日」告知の為、毎年県医務課到有床診記事掲載を要望しているが、今年も「12月は掲載記事が多い」事を理由に却下された。閑散期であれば検討可能との回答があった為、掲載原稿を作成し、閑散期で良いので掲載をお願いしたところ、その後県医務課からの回答無し。この件につき理事会報告したところ、辻 寛副会長から県に働きかけ頂ける事となる。